

令和4年度 学力向上を図るための授業改善推進プラン

教科：技術・家庭科（技術分野）

Research ⇒ 現状分析・課題把握

- 1年生**・・・【授業、実技テスト、作品、定期考査などの分析】⇒授業内の規律や三中のルールを明確にすることで、授業規律が身に付いている。発言にも意欲的な生徒が多く、どの生徒も宿題や課題に意欲的に取り組んでいる。課題に対しての発展の設問にも、よく考えて、最適解を導き出そうとしている。製図の作業では、図形の読み取りなどで、理解力に違いはあるが、概ね授業の取り組みは良い。考査では、思考を問う問題を62%の正答、主体的な取り組みを問う問題は60%の正答だった。
- 2年生**・・・【授業、実技テスト、作品、定期考査などの分析】⇒三中の授業規律が身に付いている生徒が多い。座学でも、作業でも、意欲的に取り組んでいる。栽培の学習においては、持続的な学習となるので、取り組みに差ができていく。授業の発展の設問では、意欲的に発言が出ている。考査では、思考を問う問題を、60%の正答、主体的な取り組みを問う問題は70%の正答だった。
- 3年生**・・・【授業、実技テスト、作品、定期考査などの分析】⇒三中の授業規律が身に付いている生徒が多く、作業では、2週に1回の授業だが、家庭での学習も含め、どの生徒も意欲的に取り組んでいる。発言にも意欲的で、授業も進めやすい。考査での思考を問う問題は、67%の正答、主体的な取り組みを問う問題は72%の正答だった。

Plan ⇒ 課題解決のための主な取り組み(計画)

《Ⅰ 基礎的・基本的な知識・技能の『習得』》

- 1年生**・・・さらに技能を伸ばすためには、次時の課題の予習を多くやる必要がある。授業中に大事な個所について、「三中スタイル」のねらいを踏まえ、内容を確認させて、身に付けさせる。
- 2年生**・・・2年の技能では、自分で積極的に取り組むことが必要なので、説明を理解し、自分で取り組めるように、指導を行っていく。その上で、時間内に完成させるために、何をどのように取り組めばよいかを考えさせ、最適解を導き出せるように、アドバイスしていく。
- 3年生**・・・技能面と知識とを同時に定着させることを行わせる。キーワードの反復を心がけさせ、技能では、自分で積極的に取り組み、作業をさせていく。

《Ⅱ 思考力・判断力・表現力等の『活用』する力の育成》

- 1年生**・・・設計などを通じ、ものづくりの場合の2次元と3次元の表し方の違いを個別に学ばせる。場面により、何が最適解なのかを考えさせ、取り組ませる。工具の使用では、最適な使用法、工夫する使用法を考えさせる。
- 2年生**・・・学習する3分野の内容それぞれで、別々の課題があるので、自分で考え、最適解を見付けさせることを行わせる。どのような方法で取り組めば、課題を解決し、よりよい作品になるのかを考えさせる。
- 3年生**・・・成功しない場合、どここの部分を変更すれば成功するかを考えさせる。課題に対しての最適解を導くために足りないものは何かを考えさせ、個別に指導を行っていく。

《Ⅲ『学ぶ意欲や態度』の向上、学習習慣の定着》

- 1年生**・・・復習を促し、学習内容の定着を図る。授業において、世界の技術の向上を関連付けて話し、興味をもてるように説明する。課題に対して、タブレットのコラボノートなどのICT機器の活用を利用した協働活動を取り入れ、互いの意見を共有した上で、自分の考えを深める活動をさせる。
- 2年生**・・・ICT機器の活用を増やし、効率よく説明をすることにより、技能に取り組む時間を増やしていく。課題解決のための、技能時の作業の工夫を考えさせる。課題に対して、タブレットのコラボノートなどのICT機器の活用を利用した協働活動を取り入れ、互いの意見を共有した上で、最適解について、自分の考えを深めさせる。
- 3年生**・・・授業を通して、技能時の作業を工夫させることで、課題解決を行わせる。課題に対して、タブレットのコラボノートなどのICT機器の活用を行わせ、自分の作品をよりよいものにさせる。